

02

活 動 計 画

02-1 研究と保全

適切な保全と活用で未来へ遺す ～ 確かな評価に裏付けられた価値ある遺産 ～



02-1-1 研究と保全の基本的な考え方

当地域には、地球の活動、生態系、有形・無形の文化や歴史に関する貴重な資産が多く存在しています。これらはすべて、ジオパークの基盤となる「この地域ならではの価値」を物語る資産で、将来にわたって教育やツーリズムに活用できるよう、守り伝えていく必要があります。



02-1-2 4つの資産

当地域の資産（ジオサイト等）は、次の4つに分類されます。

- ・ジオサイト
地球科学的な価値を主とする資産
- ・生態サイト
生物学的な価値を主とする資産
- ・文化サイト
文化、歴史的価値を主とする有形資産
- ・無形文化財
伝統行事、伝承等を主とする無形資産

02-1-3 研究の推進と支援の考え方

研究は、当地域の基礎的な価値を保証する大切な活動です。協議会として必要な研究を進めるとともに、外部機関と連携した最新の研究活動の推進と、論文等の情報収集に努めます。また、外部の研究者が行う研究活動のうち、当地域の活動に資するものについて支援を行い、火山活動・火山災害・減災文化を独自に進めている気象台、地質研究所、大学等の専門機関との連携を強めていきます。

02-1-4 保全活動方針

これらジオサイト等の価値を保つため、当地域では各サイトの保全と活用について、次のように定めます。

① ジオサイトの継続的な確認と記録

ジオサイトの状況を継続的に確認、記録し、保全上の問題が確認された場合は、素早く対応できる体制を整えます。

② 遺構等の保全と活用

噴火の被害を伝える災害遺構や火山活動が生みだした地形の主要なものについては、それぞれの価値を評価し、活用目的と保全策を個別に定めます。

● 遺構物等の保全について

③ 国立公園における地質遺産の保全

環境省が管理する国立公園区域には多くのジオサイトや災害遺構が含まれており、自然公園法により地形・地質遺産の保全が図られています。環境省と連携し、ゾーン区分によって保全すべき対象を明確にすることで、ジオサイトの実情に応じた保全を行います。

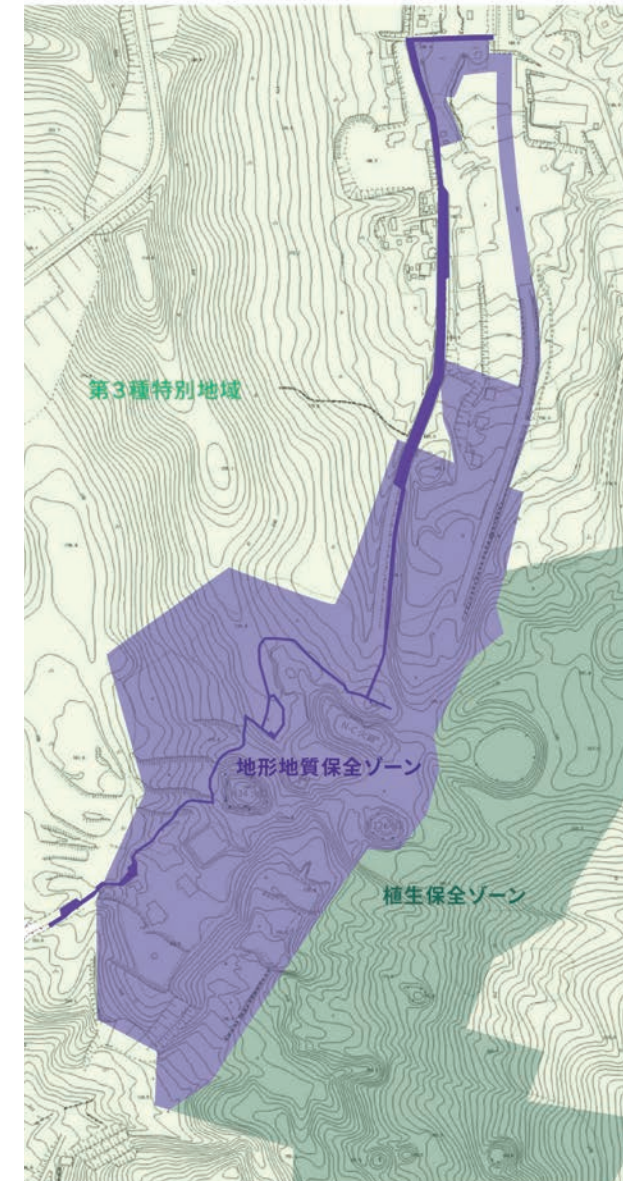
ー 地形地質保全ゾーン ー

火山活動の跡が確認できる重要な地形（噴火口、断層、隆起地形、噴石、インパクトクレーターなど）や、遺構物の保全のために、必要な範囲の植生を適宜伐採することが可能なゾーン。

ー 植生保全ゾーン ー

噴火以降の植生回復の様子を、人が手を加えない状態で保全し観察するゾーン。地球の活動サイクルや生物多様性を学ぶ場所として重要。

支笏洞爺国立公園西山火口園地
地形地質保全ゾーン



④ 鉱物等の取引と販売の禁止

GGN では、海外の採掘現場で行われている自然破壊や、地質資源の乱掘、児童労働などの防止策として、希少な岩石や鉱物標本の取引と販売を禁止しています。当地域でも、この運動に積極的に参加するとともに、ジオパーク指定の施設や、パートナー企業は、これらの鉱物等の取引、販売を一切行わないこととします。

● GGN 倫理規範

⑤ ジオサイト以外の保全と活用

生態、文化サイト及び無形遺産の保全については、管理者と連携し、保全活動を積極的に支援するとともに、関連法規を守りながら活動します。

● 自然公園法、文化財保護法、北海道自然環境等保全条例、河川法、海岸法、農地法 等



⑥ 新たなジオサイト等の指定による保全と活用

新たにジオサイト等を指定することで、破壊に直面した地球科学的資源の保全と持続的な活用を図るとともに、生態サイト、文化サイト、無形遺産と地球科学的側面との連携を進めます。ジオサイト等を指定する手順は、次の通りです。

- ① サイト等候補の情報収集（随時）
- ② 価値と状況の科学的根拠を確認（論文等）
- ③ 保全と活用について利害関係者と調整
- ④ 学識顧問から助言を得る
- ⑤ 協議会で指定

02-2 災害リスクの軽減（減災）

子ども達に受け継ぐ ～過去から学び醸成された減災文化～

02-2-1 減災活動の基本的な考え方

当地域が世界に誇る特徴の一つに「減災文化」があります（第1章 27 頁参照）。当地域では、研究者、住民団体、関係機関、報道機関との連携の中で、減災文化を発展させる活動を行います。

02-2-2 減災教育の推進

火山の特徴や減災の知識などを共有するために、火口や断層、災害遺構など、現地で本物に触れながら講師やガイドの解説を聞くフィールド学習会等を開催し、減災教育を推進します。また、地元行政、関係機関、民間団体等が行う減災事業とも連携して、積極的に地域の学校にも講師を派遣します。これらの活動は、次の世代の講師やジオガイド等を育成し、持続的に減災教育が推進される地域づくりに不可欠な取り組みです。

- ・圏域学校への講師の派遣
- ・圏域の子どもを対象にした火山学習会

02-2-3 減災文化の発信

当地域の減災に関する知識やノウハウは、活動的火山周辺地域の住民や行政の減災力向上に寄与し、多くの人々が豊かで安全な暮らしを営むためのヒントになります。地域内の減災文化活動だけでなく、他の地域に向け積極的に知識やノウハウ等の情報を発信していきます。

- ・資料や書籍、写真集などの制作・出版
- ・報道との連携による情報発信
- ・減災教育の場としての教育旅行の誘致
- ・拠点施設における展示物の充実と正確な情報の発信



02-2-4 洞爺湖有珠火山マイスター制度

当地域では、火山の正しい知識と過去の災害を学び、減災文化を次の世代に伝える活動を行う住民を「洞爺湖有珠火山マイスター」として認定しています。

火山マイスターは、地域内での教育活動を継続的に行うほか、ユネスコ世界ジオパーク（以下、UGGp という）についての魅力の発信役でもあります。

当地域では、火山マイスターの養成と認定を続けるとともに、制度運用のノウハウを国内外に広め、火山噴火災害のリスクが高い地域の減災に貢献します。

火山マイスター制度



02-3 教育（学校・社会）

当地域だからできること ～住民一人ひとりが主役に～



02-3-1 ジオパークが担う教育の基本的な考え方

地域の保育所や小中学校、高等学校といった学校教育だけでなく、大学における研究活動や社会教育まで多様な学習をサポートします。

02-3-2 幼児教育

幼児教育では「健康な心と体」「協同性」「社会生活との関わり」「自然との関わり・生命尊重」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を育むため、ジオパークを楽しむ体験活動の支援を行います。

・食育（地場産品を使ったピザ作り）等



02-3-3 小学校

減災教育のほか、学習指導要領に定められた6年生の理科「土地の作りと変化」、社会「狩猟・採集や農耕の生活」に焦点を合わせた学習支援を行います。

- ・有珠山の噴火と災害を学ぶ野外学習
- ・ジオパーク学習テキスト「大地の変化」「先人の知恵」による授業等

02-3-4 中学校

小学校教育を深めた減災教育、1年生理科「大地の成り立ちと変化」などに焦点を合わせた学習支援を行います。

- ・有珠火山の理解を深める野外学習
- ・ジオパーク学習テキスト「大地の変化」「先人の知恵」による授業等



02-3-5 高等学校

探究活動の中で、減災、火山、地域学習をテーマにした学習や、生物基礎「植生と遷移」などに焦点を合わせた学習支援を行います。

- ・ジオパーク学習テキスト「植生と遷移」による授業等

02-3-6 大学

北海道大学総合博物館との相互協力協定に基づく連携事業や、当地域内の酪農学園大学サテライトキャンパス等との連携を通じた人材育成の他、地域内での研究活動を発展させるための活動支援を行います。

- ・課題や研究のテーマに合わせたフィールドワークや講座



02-3-7 住民

ジオパークの一般住民への普及活動は、個人の知識や暮らしを充実させる生涯学習としての実施に加えて、教育、ビジネス、減災など多方面の社会活動につなげていくことを目的とします。ジオパークは、住民一人ひとりの参加によって支えられていますが、この人の環が大きいほど、活動の効果性、継続性が生まれます。そのため、次の取組みを継続的に行います。

① ジオパークカフェ

- ・ イベントへの出展参加による地域理解の促進（体験ブース、トークイベント、シンボルメニューの提供など）
- ・ 地域の団体等の依頼による出前講座「出張！ジオパークカフェ」の実施

② ジオパーク講座

- ・ ジオパークについて、火山と防災、自然、歴史・文化、食・観光などの講義、ガイド技術向上のためのサポート

③ 参加型イベント、学習会

- ・ 親子向け有珠山学習登山会 等

④ 地域に向けたジオパークの紹介

- ・ 地域内の銀行、病院、理、美容院等へのマガジン類の配布
- ・ 各市町広報紙、Web ページへのジオパーク情報の掲載（毎月）



02-4 ツーリズム・産業連携

わざわざ行きたくなる ～ここにしかないもの、ここでしかできない体験～



02-4-1 地域振興の基本的な考え方

ジオパークは、次の分野で地域経済に貢献する取り組みです。

① 地域資源の価値の保証：

ジオパークは、ジオサイト等のリストに掲載された地域資源の価値を、科学的に保証します。

② 物語性の付加：

ジオパークは、地域資源と大地の成り立ちを関係付けることで、付加価値（この地域ならではの物語）を提供します。

③ 地域横断的なネットワーク活動：

ジオパークは、登別洞爺広域観光圏など、他の広域活動と連携しながら、当地域全体の地域振興に資する人的交流、情報共有を進めます。

④ 分野横断的なネットワーク活動：

ジオパークは、地域のさまざまな関係者が関わる取り組みです。多分野、多業種の横断的な活動を進めます。

⑤ プロモーションの情報基盤整備：

ジオパークは、観光情報媒体や教育旅行の教材などを作成し、地域内で連携して行う観光誘致活動に協力します。

⑥ 来訪者の利便性と満足度向上のための体験基盤整備：

ジオパークは、ガイドの活動を支援するとともに、各管理者との連携により、施設や道路サインを充実させます。

⑦ 持続的な活用のための保全：

ジオパークは、地域資源を将来にわたり活用できるよう、管理者との連携により保全します。



02-4-2 ツーリズム（観光）

当地域の観光分野には、宿泊施設、運輸（バス、タクシー、汽船、モーターボート、ロープウェイ等）、飲食店、商店、ガイド、加工品の製造など、さまざまな業種があります。これらの事業者に加えて、登別洞爺広域観光圏協議会や、当地域に5団体ある観光協会、業界団体などと連携し、地域全体で、来訪者がジオパークを楽しめるためのサービス体制を作るため、次の取組みを行います。

- ・ジオパーク・パートナーの参加募集
- ・パンフレット、資料の作成と配布
- ・のぼり旗、グッズ等の提供



02-4-3 産業連携

観光分野以外では、農業、漁業、畜産業などが当地域の主な産業です。農業分野では、当地域の地形や環境を巧みに利用しながら、生産されているものもあります。来訪者の購買意欲、満足度、安全性に直結する食の分野を生かした産業連携を進めるため、次の取り組みを行います。

- ・ストーリーブック、カードを活用した物語の普及による付加価値化
- ・道の駅等への地場産品販売促進バナーの設置

また、当ジオパークを共に盛り上げてくれる商品開発や起業等への支援を検討していきます。



02-4-4 ガイドの活動支援

ガイドは、地域の見どころや地場産品など、多面的な地域の魅力を来訪者に伝える存在です。

当地域には団体、個人で活動するガイドが多く存在し、通年営業するプロガイドのほか、兼業ガイド、ボランティアガイドなど、さまざまな活動形態があります。来訪者にとって満足度の高いガイド活動が、当地域全体で行われるよう、次の支援を行います。

- ・ジオパーク内で活動するガイドのネットワークづくり
- ・ガイド技術講座の実施
- ・情報支援、資料やグッズ等の提供



02-4-5 教育旅行

当地域には、道内外から多くの学校が教育旅行に訪れます。2011年の東日本大震災以降、当地域の減災教育に焦点を当てたガイドツアーの関心が高まり、今後も需要が拡大すると考えられます。効果的な誘致を支援するため、次の取組みを行います。

- ・学習指導要領対応のテキストの活用
- ・SDGs に対応したプログラムの作成
- ・観光誘致に利用できるチラシの作成
- ・圏域で連携した誘致活動への参加



02-4-6 地場産品を活用したシンボルメニュー

当地域の特産物であるさまざまな食材をトッピングしたピザやホットサンドを当地域のシンボルメニューとし、提供する参加店を増やすとともに、イベント等で提供するなど食を通じてジオパークを楽しんでもらえる活動を進めていきます。

① ジオパーク ピザ

ジオパークの大地に見立てたピザ生地に、大地の恵み（地元産の具材）をのせて調理する。ピザを焼く際に、有珠山の溶岩プレートを蓄熱板として使用し、火山地域ならではの調理方法としてPRしている。

② ジオパーク ホットサンド

約 5,000 年前からこの地域で食べられてきた、ホタテを象った鏝物で、大地の恵み（地元産の具材）を包んだホットサンドイッチ。

🔴 ジオパークピザ・ホットサンド認定
マニュアル



ジオパーク ピザ



ジオパーク ホットサンド

02-5 基盤整備

まち全体が広告塔に ～ ニーズ、ターゲットを的確に捉えた戦略的アピール ～

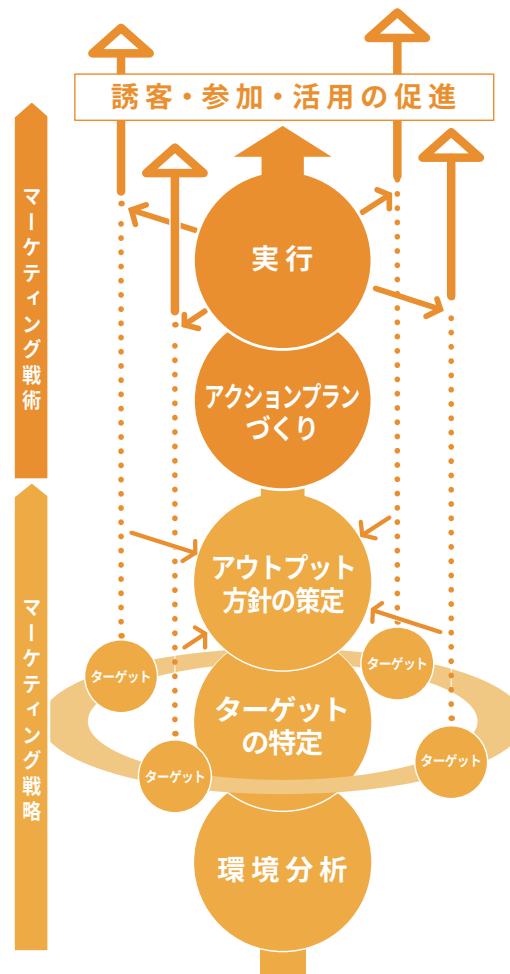


02-5-1 基盤整備の基本的な考え方

ジオパークの活動は多岐にわたり、その基盤整備は、さまざまな関係機関との連携により進められます。そのため、情報発信には統一感が必要です。

02-5-2 マーケティング戦略

ジオパークの魅力を効果的に伝え、満足度の高いサービスを提供するためには、マーケティングの視点が必要です。新たに企画を立ち上げる際には、誰のために作るのか（対象者）、何が求められているか（ニーズ）を明確にすることが大切です。この考え方は、観光分野だけでなく、教育など他の分野においても利用できます。



02-5-3 ブランディング

ジオパークのブランディングとは、「ここだけの価値」を分かりやすく伝え、関心、共感、感動を促すための情報発信を指します。そのためには、価値の明確化が必要です。施設、散策路、ジオサイト等の地域資源に加えて、体験や教育などのプログラムについても、客観的な価値を分析し、利用しやすいように数値化するとともに、必要に応じて再評価を実施します。

02-5-4 ブランドイメージの統一

地域のイメージを伝えるには、正確で親しみやすい言葉（キャッチフレーズ）の使用と、視覚的イメージのルール化が有効です。

キャッチフレーズは、本計画第2章「活動計画」の各項目を参照してください。視覚的イメージは、次の「正式ロゴ」「ブランドイメージ・グラフィック」を目的別に使い分けています。

① ユネスコから付与された正式ロゴ

UGGp 認定地の価値を示すもので、協議会が公的に位置づけた施設やサイン、ホームページ等に使用し、営利目的での使用は禁止されています。



② ブランドイメージ・グラフィック

地域の魅力や楽しさを表現したグラフィック（図案）です。旗、バッジ、ポロシャツなど、さまざまな普及物品のデザインに使用しています。使用申請が必要ですが、地域内の団体や個人には、無料で提供しています。

- ・各市町指定分別ごみ袋にジオパークのグラフィック、コピーを掲載



02-5-5 施設、サイン等について

当地域の施設は 22 箇所あり、その役割から①主要拠点施設（10 施設）②案内施設（6 施設）③連携施設（6 施設）に分かれています。

また、サインの種類には①ウェルカムサイン ②施設 / サイト誘導サイン ③拠点施設 外壁 / エントランス表示サイン ④総合案内板 ⑤解説サイン ⑥旗・バナー等があり、それぞれ目的やデザインなど基本仕様が設定されています。

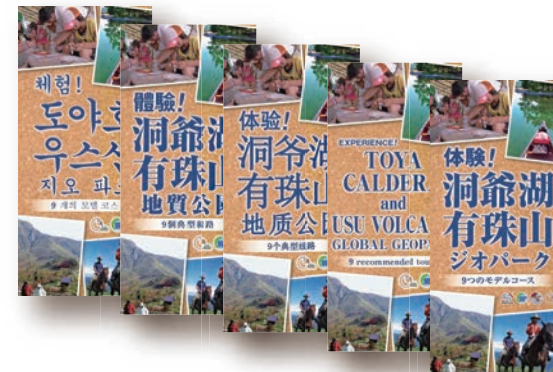
施設の展示内容については、ユネスコ世界ジオパークの拠点施設としてふさわしい、地球科学的な側面や、自然・文化と関連するあらゆる側面についての情報が盛り込まれるように、施設管理者と連携して改良に取り組めます。



02-5-6 多言語化とユニバーサルデザイン

当地域には海外から多くの人を訪れます。基本的な情報提供媒体は、日英2カ国語を基本としていますが、特に利用度の高いパンフレットや、安全情報、保全のための注意喚起等を行う資料や標識については、5言語（日本語、英語、中国語簡体、中国語繁体、韓国語）で作成します。

また、各施設の管理者との連携の中で、ユニバーサルデザインの導入を検討するなど、多くの人と同じ体験を共有できる、サービスの提供をめざします。



02-5-7 Web の活用

Web サイトについては、スマートフォン、タブレットに対応し、旅行者、教育関係者、地域住民の対象別に、コンテンツをまとめることで、調べたい情報にアクセスしやすいサイトをめざして運用しています。さらに、Facebook での情報発信を行うほか、スマートフォンのアプリ「ジオパークぶらり」では、現地にいながら散策路情報を確認できます。

 ウェブページ Facebook Instagram



洞爺湖有珠山ジオパークのホームページを携帯やパソコン、タブレットで、ぜひご覧ください。

洞爺湖有珠山ジオパーク

<https://www.toya-usu-geopark.org/>



facebook

たくさんの「いいね！」
もやっています！

よろしくお願いします！



<https://www.facebook.com/ToyaUsu/>

02-5-8 印刷物

印刷物（書籍、パンフレット等）については、企画時に対象者を設定し、効果的な資料を作成します。

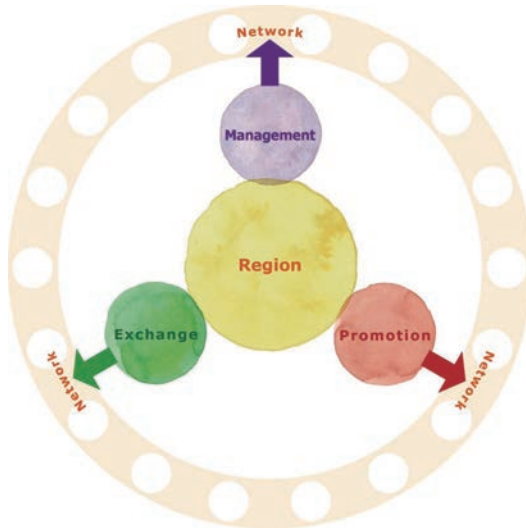


02-6 ネットワーク活動

交流がつなぐ ～ 発信と発見の連鎖とその先 ～

02-6-1 ネットワーク活動の基本的な考え方

ネットワーク活動は、ジオパークの特徴的な活動の一つです。2004 年から始まった世界ジオパークの仕組みは、当時の関係者の緊密な連携の下で作られてきました。その流れを受け継ぎ、現在でもネットワーク活動を通じて、アイデアを持ち寄り、より良い運営や宣伝、価値の創出をめざします。この活動は、他地域の成功事例を学び、当地域の活動に活かす機会にもなります。



02-6-2 国際ネットワーク活動の考え方

ネットワーク活動は、活動の目的別に、次の3つに分けられます。

① 運営参加

ジオパークの国際会議や、ワーキンググループ（WG）に参加します。また、ユネスコからの依頼に応じ、UGGp の審査員を派遣します。

- ・ユネスコ世界ジオパーク（UGGp）国際会議、アジア太平洋ジオパークネットワーク（APGN）の会議への参加
- ・GGN マガジンへの記事の投稿
- ・火山、減災などの WG への参加

② 交流参加

世界中のジオパーク、あるいはジオパークをめざす地域との、人的交流、情報共有を行います。特に当地域の特色あるプログラムとして、災害遺構の保全と活用、火山マイスター

制度などのノウハウや実績を積極的に提供します。特に、ネバド・デル・ルイス地域は、当地域での研修を機会に、コロンビア初の UGGp をめざす活動を開始しています。

- ・ UGGp 研修プログラムとして、海外からの視察受け入れ
- ・ UGGp 地域との姉妹交流

③ プロモーション参加

当地域は、外国人宿泊数が、年間 130 万人を超える国際観光地です。各所で観光客の目にふれるよう、UGGp 地域としての視認性を高めます。また、連携効果が期待できる共同事業に参加し、ジオパークの国際的な知名度向上に協力します。

- ・拠点施設や宿泊施設、観光情報施設における UGGp の紹介
- ・共同プロモーション事業への参加など



02-6-3 海外の UGGp との姉妹交流

GGN や APGN のネットワーク活動だけでなく、他のジオパークとの姉妹交流は、より深い学び合いや、継続的な人的交流が可能となるという点において、効果が期待できます。

- ・子ども同士の国際交流
- ・減災教育をテーマとした住民交流
- ・火山地域の恵みに関わる産品の物流など

02-6-4 国内のネットワーク活動

国内の UGGp 地域や、日本ジオパーク認定地域とのネットワーク活動にも、積極的に取り組みます。特に、火山を持つジオパークとは、共通するテーマが多く、情報交換や人的交流を通じて、ノウハウを学ぶ好機になります。



雷瓊ジオパーク（中国）との姉妹交流に向けた協議